

開講日	2013年春期 水曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階講義室A
コースディレクター	名古屋市立大学 医学研究科教授 道川 誠		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】日本の認知症患者は平成14年の約149万人から倍増し、現在では推計305万人に達している(厚生労働省発表)。超高齢社会に突入した我が国における認知症患者数の増加は、介護を含めて社会に大きな影響を与えるものと懸念されている。認知症を来す代表的な疾患としてアルツハイマー病があり、その研究は近年、急速に進展しており、症状の軽減、治療法の確立、予防法の発見に期待が高まっている。また、他に認知症を来す疾患にはパーキンソン病およびその類似疾患、脳血管障害などがあり、これらの理解も重要である。また、認知症の初期症状にうつ病様の症状が現れることがあり、うつ病が認知症の危険因子であるとする研究もあり、認知症とうつ病の関連が指摘されている。この講座では、社会的関心の高いこうした認知症ならびにうつ病について、その病態、治療法、介護などについて解説し、介護現場と研究の両面から、認知症とうつ病の解決のためにあるべき方向を考える。 【期待される成果】アルツハイマー病、パーキンソン病、うつ病などの基本病態と治療法について理解するとともに今後の治療法開発の最前線を理解することで、これら疾患に対する正しい対処の仕方を学べる。		
目標とする 資格			

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	高齢社会と神経・精神疾患	総説、講座概要	4月17日	教授 道川 誠 名古屋市立大学大学院医学研究科 病態生化学
L-2	2	認知症とは:鑑別診断	最新の疫学調査では、既に日本全国に300万人を超える認知症患者さんがいると推計予測されています。本講義では、アルツハイマー病を始めとした認知症疾患を分かりやすく概説します。	4月24日	助教 豊田剛成 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科
L-3	3	治療法ー薬物治療と非薬物治療ー	アルツハイマー病薬物治療は、我が国においてもグローバルスタンダードの薬剤が使用可能になっています。本講義では、各薬剤の特徴および非薬物的治療法の可能性について簡単に概説します。	5月8日	准教授 松川則之 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科
L-4	4	認知症に伴う精神症状と行動異常への対応	認知症の患者さんのなかには、いろいろな精神症状や行動面の困った問題が生じることがあります。それまで穏やかであった人が、怒りっぽくなったり、沈み込んでしまったりします。また、見えないものが見えるといった訴える方もいます。このような症状は、介護する人にとって一番負担になる状態です。原因と対応についてお話させていただきます。	5月15日	部長 服部英幸 国立長寿医療研究センター 行動・心理療法部
L-5	5	治療可能な認知症	認知症を呈する原因には、多くの疾患が含まれます。本講義では、進行抑制のみではなく、根本的に治療可能な認知症疾患について分かりやすく解説致します。	5月22日	臨床教授 片田栄一 名古屋市立大学病院
L-6	6	うつ病ー総論	WHO推計によると、精神神経疾患は健康損失の最大の原因であり、中でもうつ病による損失が最も大きいことが示されています。加えて、今後20年間うつ病による損失は増加傾向にあると推定されております。本講義では、うつ病の病因、診断、有病率、影響等について概説いたします。	5月29日	教授 明智龍男 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学
L-7	7	アルツハイマー病の治療法開発の現状と未来	アルツハイマー病の疫学、原因遺伝子の発見、危険因子の発見の歴史等を概説し、基礎研究の概略を解説するとともに、それを基盤にした治療・予防法の開発研究の現状と未来について解説します。	6月5日	教授 道川 誠 名古屋市立大学大学院医学研究科 病態生化学
L-8	8	うつ病の治療ー精神療法	うつ病に対して治療効果が検証されている精神療法をご紹介します。その内容の一部を実際に体験していただきます。	6月12日	准教授 中野有美 椋山女学園大学
L-9	9	うつ病の治療ー薬物療法	うつ病の薬物療法は古くから行われていますが、近年はそのあり方が大きく変わっています。現在標準的と考えられているうつ病の薬物療法の概略および実際の治療場面で注意すべき点などを解説します。	6月19日	講師 竹内 浩 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学
L-10	10	身体疾患とうつ病	身体疾患、特にがんのような疾患に罹患することは様々な精神的負担をもたらします。その結果としてうつ病を呈する方も多く、適切なサポートが必要となります。その際に必要となるコミュニケーション、評価やケアなどについて学びましょう。	6月26日	病院准教授 奥山 徹 名古屋市立大学病院 緩和ケア部
L-11	11	パーキンソン病	神経筋疾患には多くの疾患が存在します。加齢を最大の危険因子とする神経変性疾患のなかで、アルツハイマー病について罹患率の高い疾患としてパーキンソン病が知られています。本講義では、パーキンソン病について分かりやすく解説します。	7月3日	助教 大喜多賢治 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科
L-12	12	パーキンソン病の治療法	近年、パーキンソン病治療は飛躍的に進歩しています。本講義では、現在のパーキンソン病治療薬および外科的治療法について分かりやすく解説します。	7月10日	助教 大喜多賢治 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科
L-13	13	パーキンソン症候群	パーキンソン病に類似した運動症状を呈する多くの神経変性疾患が知られています。本講義では、パーキンソン病の類似疾患(パーキンソン症候群)の特徴と治療介入の限界について分かりやすく解説します。	7月17日	助教 植木美乃 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科
L-14	14	認知症の神経病理	認知症をきたす代表的な疾患であるアルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症、血管性認知症などの神経病理所見の特徴について概説します。	7月24日	教授 吉田真理 愛知医科大学 加齢医学研究所
L-15	15	高齢社会と認知症	今後進行する高齢社会に伴って認知症はますます増加してゆきます。認知症の診断や治療は病院が主体ですが、予防対策やケアなどは地域が中心となります。本講義では予防を中心とした認知症への取り組みなどについて概説します。	7月31日	所長 鈴木隆雄 国立長寿医療研究センター

S: シミュレーション形式 L: 講義形式